

**1 学校教育目標**

知・徳・体の調和のとれた教育活動の推進

- (1)主体的な学びを伸長する学習指導・進路指導の推進
- (2)総合的な人間力の育成に向けた特別活動・体験学習の充実
- (3)自主自立と社会貢献の精神を育む地域連携の取組の推進

〈中・長期目標〉 **伝統を継承し、相互の信頼感を深め、不断の努力によって学力の充実した心身ともにたくましい生徒を育成をめざす****2 令和2年度に重点を置いて目指す目標・具体的方策**

- ① **総務課**  
地域や家庭との連携協力
- ② **教務課**  
教育課程の充実及び令和4年から始まる新学習指導要領への対応と校務支援システムのスムーズな運用
- ③ **生徒課**  
生徒と教師の信頼関係を基盤とした生活指導、年次・分掌との連携による生徒が主体の学校行事・生徒会活動の運営と活性化
- ④ **進路指導課**  
個々の生徒の希望進路に応じたきめ細かな進路指導の充実、主体的な学習への指導、大学入学共通テストへの適切な対応
- ⑤ **教育相談課**  
生徒の人間関係や悩み等の諸問題に対する早期発見と早期対処
- ⑥ **図書視聴覚課**  
読書活動の充実
- ⑦ **情報企画課**  
校内外の情報資産を安全かつ有効な利用の推進
- ⑧ **保健体育課**  
たくましく生きるための体力の向上、望ましい人間関係づくり
- ⑨ **SSH・理数科**  
理数科および学校全体で取り組むSSH事業等による先進的な理数教育の推進
- ⑩ **人権教育**  
人権尊重についての正しい理解及び日常の行動・態度において人権への配慮ができる人権感覚の育成
- ⑪ **業務改善**  
教職員が互いの業務内容を理解・協働して業務遂行ができる職場づくり

3 自己評価					4 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務	○地域や家庭との連携協力	今年度からコミュニティ・スクールを導入するとともに、学校ホームページの充実と迅速な情報更新を行い、地域とともにある学校づくりに努める。	4:連携して効果的な対応ができた。 3:連携して対応ができた。 2:連携して対応できなかった。 1:状況把握ができなかった。	4	新型コロナウイルス感染症対応のため、学校説明会は開催することができなかったが、例年は配布していない部活動紹介パンフレットを作成・配布するなどの代替措置を講じ、授業公開は感染症対策を徹底して開催することができた。 ホームページの更新を行事実施後すぐに行い、迅速な情報発信ができた。 本年度から学校運営協議会を開催し、コロナ禍ではあったが、地域との連携を深めることができた。	HPでの情報発信はよい。情報発信は重要である。 学校評価アンケートで教員と生徒の回答にずれがあるところについては十分に分析する必要がある。	A
教務	○教育課程の充実及び令和4年から始まる新学習指導要領への対応と校務支援システムのスムーズな運用	生徒の進路実現に適切に対応する教育課程の編成と教育活動をスムーズに展開する。 校務支援システムの運用について更なる研修の充実を図る。	4:年次・教科間で生徒の特性を共通理解して、円滑な教育支援と課題の改善への研究を行った。 3:年次・教科間で共通理解をして、教育支援を行うことができた。 2:年次・教科間での共通理解が不十分だった。 1:生徒の特性を把握できなかった。	4	新型コロナウイルス感染症対応のための臨時休業により、本年度の学校生活は大きく変わったが、その中でも、オンライン授業や自学の指示、夏季冬季休業の短縮により授業時間を確保することで、本校の学校教育目標は達成出来たと思う。しかし、職業人による魁講座Ⅱが実施できなかったことは遺憾である。コロナ禍の中、各教科と連携を図り令和3年度の教育課程を一部改訂、また、令和4年度の教育課程を作成した。校務支援システムについても改善を図っている。	何のために勉強するのかという目的をしっかりと伝えることが大切である。 ICTを活用した授業改善について、先導的な取組を期待している。	A
生徒指導・特別活動	○生徒と教師の信頼関係を基盤とした生活指導、年次・分掌との連携による生徒が主体の学校行事・生徒会活動の運営と活性化	生徒指導の4本柱(遅刻の防止、挨拶の励行、掃除の徹底、服装・頭髮の清整)と情報モラルの指導を徹底し、基本的な生活習慣と規範意識を確立させることができる生徒を育成する。	4:十分に指導が行き届き、9割以上の生徒が基本的な生活習慣と規範意識を確立させた。 3:7割以上の生徒が基本的な生活習慣と規範意識を確立させた。 2:基本的な生活習慣と規範意識を確立させた生徒が半数程度だった。 1:基本的な生活習慣と規範意識を確立させることができなかった生徒が多かった。	4	新型コロナウイルス感染症予防の観点から全体指導の機会が制約され、基本的な生活習慣の崩れや指導の共通理解の緩みが懸念されたが、各年次や部活動、日々の校門での指導等を通じて、おおよそ基本的な生活習慣の維持と規範意識の確立に向けた生徒の育成ができた。	マスクの着用については、登下校時を含めてしっかりと行う必要がある。生徒も地域社会の一員として、地域の安心・安全を作っていく者としての取組が必要である。	A
		生徒自身が主体的に学校行事や生徒会活動に取り組むことで連帯感や自己有用感を高め、望ましい人間関係づくりができるように支援する。	4:学校行事・生徒会活動が成功し、9割以上の生徒が連帯感・自己有用感を高めた。 3:7割程度の生徒が連帯感・自己有用感を高めた。 2:連帯感・自己有用感を高めた生徒が半数程度だった。 1:連帯感・自己有用感を高めることができなかった生徒が多かった。	2	徳山高校としての一体感を育む機会が制約を受ける中、校内外の関係者の協力の下、最上級生を中心に、ある程度生徒自身が主体的に活動する機会を得ることができた。しかし、本校ならではの特別活動への理解が不十分で、生徒全体への活動へと盛り上げるための時間の確保が困難であった。	アンケートを見ると、行事等がなくなったことで、その大切さが改めて認識されたことがわかる。 普段と違った状態で何ができるかを考えることにより、ピンチをチャンスに変えることができる。	
進路指導	○個々の生徒の希望進路に応じたきめ細かな進路指導の充実、主体的な学習への指導、大学入学共通テストへの適切な対応	(1年次生) 「予習・授業・復習」サイクルによる学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。大学入学共通テストに必要な基礎学力を育成する。	4:学習習慣が定着し、学力が向上した。 3:学習習慣が定着した。 2:成果があまり見られなかった。 1:成果がほとんど見られなかった。	3	新型コロナウイルス感染症対応のための臨時休業により、予定されていた入学当初の学習オリエンテーションが5月下旬に実施されるなど、スタートに遅れが生じたが、オンライン授業等により、学習習慣や基礎学力の定着を図った。授業開始後は、マンベジムの活用、講演会等の実施により、自己管理能力、学習計画力、進路に対する意識が向上した。授業改善、補習、課外、小テストや面談を通して、学習に対する意識が向上した。また下位者に対するきめ細かい指導により、例年と比較して全体として高い学力を維持している。	何のために勉強するのかという目的をしっかりと伝えることが大切である。進路の指導には企業力を借りるのもよいのではないかと。 魁講座は非常に良い取組なので、中止にするのではなくリモート開催も検討するとよい。	B
		(2年次生) 学習計画、課外、模擬試験等の実施により、早期受験態勢の確立とともに大学入学共通テストに対応できる学力の習得を図る。	4:受験への取組が十分できた。 3:受験への取組ができた。 2:成果があまり見られなかった。 1:成果がほとんど見られなかった。	3	新型コロナウイルス感染症対応のための臨時休業により、授業開始が遅れたが、オンライン授業等により、学習への意欲や進路に対する意識の向上を図った。授業開始後は、授業改善、課外、模擬試験等の実施により、受験に対する意識を強化し学力の向上が見られた。例年教科により成績にばらつきが見られるが、5教科においてバランスの取れた学力を身につけている。		
		(3年次生) 模擬試験、課外、大学入学共通テスト対策講座、小論文、面接指導等の実施により、受験学力の習得を図る。	4:受験に対応できる学力が向上した。 3:受験に対応できる学力が定着した。 2:成果があまり見られなかった。 1:成果がほとんど見られなかった。	3	新型コロナウイルス感染症対応のための臨時休業により、授業開始が遅れたが、オンライン授業等により、学力の伸長や進路に対する意識の向上を図った。授業再開後は6月から11月までの平日放課後課外、5月下旬からの個別添削指導等の実施により、学力の向上が見られた。大学入学共通テスト、個別試験、小論文に対応した講演会、講座を予定通り実施することで、基礎学力及び受験学力が上昇した。また、各種模試を積極的に受験させ、全体としての受験に対する意識と受験に対応できる学力が向上した。		

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教育相談	○生徒の人間関係や悩み等の諸問題に対する早期発見と早期対応 ○いじめの未然防止及び諸問題に対する早期対応	年次や保護者、他の分掌との連携、また意識調査等による生徒の状況把握と適切な対応をおこない、生徒にとって安心・安全な学校生活の実現に寄与する。 いじめ等に関する生活意識調査を行い、生徒の状況把握・早期対応に努める。	4:連携して効果的な対応ができた。 3:連携して対応ができた。 2:連携して対応できなかった。 1:状況把握ができなかった。	3	新型コロナウイルス感染症対応のための臨時休業に伴う生徒の健康不安が心配であったが、生活意識調査の実施等によって状況把握に努めるとともに、支援が必要と思われる生徒や保護者に対してはスクールカウンセラーに迅速に対応していただき、問題に対する早期の対応に取り組んだ。 いじめについては重大な問題は生じていないが、ネットへの書き込みなどもあり、生徒の様子に引き続き注意していく必要がある。 また、通級指導等、特別支援教育について教職員への理解が浸透しているとは言えず、今後も連携を図るうえで全体への働きかけが必要と考える。	いじめはないと聞いているが、進路や人間関係における悩みを持つ生徒はいるだろう。進路についての相談には社会人を活用してはどうか。	B
図書視聴覚	○読書活動の充実	読書推進のための情報提供と図書配架を行う。	4:活動状況は例年より好調であった。 3:活動状況は例年並みであった。 2:活動状況は例年より低調であった。 1:活動状況は顕著に低調であった。	3	読書感想文コンクールでは、地区審査出品5名のうち2名が県のコンクールに推薦され、そのうち1名は優秀賞に入賞し、もう1名は優良賞に入賞した。今年度はコロナの影響により、審査の形態も例年のように生徒の直筆を評価するものではなかったことも影響したのではないかと考えられる。	読書に勝る学習はないと思う。読書ができる環境の提供を進めてほしい。	A
情報企画	○校内外の情報資産の安全かつ有効な利用の推進	利用可能な情報機器・資産の管理と保守を適切に行う。校内外における透過性を高めて有効な活用を図る。	4:管理と保守が適切で安全かつ完全に利用した。 3:適切に維持・管理した。 2:十分に管理・保守ができないことがあった。 1:安全性または可用性の低下で業務に支障を来した。	3	GIGAスクール構想実現の進捗に伴い、校内外の環境整備が今なお進行中である。特に本年度末において、新しい機器類に関連する新規導入作業の同時進行が複数予定されている。従来の年度末更新作業に加え、今後長期の使用における安全性と可用性の確保のため注意して作業計画と運用を行いたい。	タブレット端末の導入が一気に進むこととなったが、機器の管理やセキュリティーには十分に気をつけてほしい。	B
保健体育	○たくましく生きるための体力の向上、望ましい人間関係づくり	体育の授業や部活動等を通して仲間との連帯感・協調性を大切にし、自己の体力と運動能力を向上させるとともに、自分の思いや願いを話すことと同時に他人を思いやることができる生徒を育てる。	4:仲間と協力し、自主的・主体的に工夫して活動していた。 3:仲間と協力し、自主的・主体的に工夫して活動する生徒が多かった。 2:仲間と協力し、自主的・主体的に活動する生徒が半数程度だった。 1:仲間と協力し、自主的・主体的に活動しない生徒が多かった。	3	新型コロナウイルスの蔓延に伴い、換気の徹底、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保、手洗い等、新しい生活様式の徹底が求められ、保健体育課教員を中心に全教職員の協力の下、生徒の感染防止に最大限の配慮をしてきた。 体育の授業においては、年間計画を大幅に見直し、体操・補強運動の方法、球技種目の検討等を行いながら、かつ生徒の運動量を落とさないように活動を展開した。 運動会は今年度は中止となったが、来年度の再開に向けて十分な準備をしていきたい。	レベルが上がった現在は違うかもしれないが、10月に授業参観した際に生徒のマスク着用率が低かったことは課題と感じた。 部活動を通じて、協調性・連帯感を学ぶことが重要である。	B
SSH・理数科	○理数科および学校全体で取り組むSSH事業等による先進的な理数教育の推進	理数科と学校全体でSSH事業に取り組み、実践を通じて全校生徒の理数や科学技術等に対する理解を深め、国際感覚の涵養を図る。	4:学校全体で教育効果の高い活動ができた。 3:学校全体で予定された活動がほぼできた。 2:理数科・科学部で予定された活動がほぼできた。 1:予定された活動がほぼできなかった。	4	第三期SSHで計画していた大学連携、海外連携が軒並み中止となり、大幅な変更が余儀なくされた。今年度は「充電の年」として①オンライン等のICT機器の活用、②課題研究や科学部活動の活性化、③積極的な情報や成果発信を掲げ、それぞれについて成果を上げることができた。特に①に関して、各科目の代表教員による定期的な授業研究会の立ち上げは大きな成果であった。この会で作成した授業実践集は県の中高に配布する予定である。この他、校内科研費による課題研究の活性化や1年次PBLの実施や発表、成果物の作成や周辺校への配布、毎週のHP記事の更新等、変化に柔軟に対応し、成果を上げることができたと考える。	SSHの取組の本質は科学への興味・関心を高めることにあるので、しっかり取り組んでほしい。 SSHの魅力・期待は大きい。令和3年度の理数科推薦入学者選抜の志願倍率4倍だったことにもはっきりと現れていた。 いずれ制度としてもSSHの指定がなくなったとしても、理系を希望する生徒をしっかり受入れられるようにしてほしい。	A
人権教育	○人権尊重についての正しい理解及び日常の行動・態度において人権への配慮ができる人権感覚の育成	・授業を通して人権問題についての認識を深め、人権尊重の視点を育てる。 ・講演を通して人権問題について考える。 ・学校行事を通じて共同体験の中で人権を尊重した精神や態度を学ぶ。 ・総合的な学習・探究の時間において自己に向き合う体験をさせる。	4:取組により他者の人権に配慮する意識が高まった。 3:取組により他者の人権に関心を持つようになった。 2:取組の成果が十分現れなかった。 1:状況把握ができなかった。	3	今年度よりLGBTに対する理解を新たに取り入れた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため例年のような講演会が実施できず、学年ごとのDVDの視聴という方法となったが、生徒への問題意識への投げかけにはなったと思われる。ただ、感想文等では十分な理解に至っている生徒はまだ僅かであり、この取り組みを継続していくことが重要であり、検討課題としていきたい。	情報機器の導入にともない、セキュリティーや情報の管理についてもしっかりとしてほしい。	A
業務改善	○教職員が互いの業務内容を理解・協働して業務遂行ができる職場づくり	教職員がそれぞれの業務内容を理解・協働することにより、効率的に業務を遂行し、負担感、多忙感の軽減を図る。	4:業務内容の相互理解が進み、チームとして業務を遂行することにより、業務改善された。 3:各分掌や主担当間の連携による業務遂行が進み、負担感や多忙感が軽減されつつある。 2:チームとして業務を遂行しようとする意識はあるものの、業務改善につながっていない。 1:チームとしての業務体制が確立できず、教職員に時間的なゆとりが見られなかった。	3	全体としての業務時間は削減されているが、一部の負担が大きい状態は続いている。新型コロナウィルス感染症対応やICTの活用等、新たな業務が入ったことにより、一部では負担が増えたこともあり、大幅な業務時間の縮減には至っておらず、引き続き業務改善の取組を推進していく必要がある。	業務に直接関わることではないが、アンケートを見ると校舎が相当に悪い状態であることがわかる。生徒の学習環境、教員の職場環境の改善を要望し続けてほしい。	B

## 5 学校評価総括(取組の成果と課題)

### ① 総務課

新型コロナウイルス感染症対応のため、全校集会等例年通りに実施できない行事もあったが、授業公開や卒業式等は例年とは異なる形式で工夫して実施することができ、全体的には新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じて、地域や家庭との連携を図ることができた。引き続き、例年の形式を踏襲しつつ、工夫・改善に取り組んで諸行事の実施に努めたい。

### ② 教務課

新型コロナウイルス感染症対応のための臨時休業により、本年度の学校生活は大きく変わったが、中でも、オンライン授業や自学の指示、夏季冬季休業の短縮により授業時間を確保することで、本校の学校教育目標は達成できた。

### ③ 生徒課

生徒自身による主体的な集団活動の機会が損なわれた。生徒はその環境の中で最大限の工夫を重ね、「二大行事」に代わる企画を成し遂げた。1・2年次では自己肯定感や健全な所属意識を育むべき生徒指導の根幹が揺らいでおり、来年度は建て直せるよう生徒の活動時間と場所の確保が必要である。生活指導も望ましい人間関係の中で効果を発揮することを共通理解しておきたい。

### ④ 進路指導課

新型コロナウイルス感染症対応のための臨時休業により新年度の実質的な開始が遅れたが、それぞれの年次で計画を再設定し、柔軟に取り組むことにより、進路意識や基礎学力、受験学力が向上した。来年度は大学入学共通テスト2年目になることを踏まえ、より一層きめ細かな進路指導を推進し、生徒の希望進路の実現に向けて組織的な対応を進めることが課題である。

### ⑤ 教育相談課

臨時休業や長期休業の縮減による心身への影響が危惧されたが、生活意識調査等の結果では生徒は概ね安心・安全な学校生活を送れている。個別の生徒の抱える問題が埋もれてしまわないよう、今後とも学年や他の分掌と連携をはかり、早期発見・早期対応に繋げていきたい。

### ⑥ 図書視聴覚課

読書活動を促す様々な働きかけにより、読書量が増えた。また、各種小論文コンクールへの応募も好成績を納めている。

### ⑦ 情報企画課

オンライン授業の試みやスタディーサプリ、1人1台タブレット端末の導入等、教育のICT化に向けた様々な取組が一気に進んだ年度であった。広く協力や援助を仰ぎ、今後の活用を進め、新しい業務に対応する必要がある。

### ⑧ 保健体育課

新型コロナウイルス感染症拡大の中、生徒の感染防止に対する意識の高揚は十分に見受けられた。来年度は、こうした状況の中で、いかに日常の学校生活、伝統的な運動会を復活再開させていくか、十分検討しながら全教職員一丸となって進めていきたい。

### ⑨ SSH・理数科

5種類のリーフレット、1冊の授業テキスト、3冊の成果報告書等を作成し、県内中学校や高等学校に配布することで、第3期SSHの目標に掲げた成果の普及を達成することができた。また、オンラインを活用した課題研究の校外発表や海外との交流、企業連携等を継続的に実施し、変化し続ける状況に柔軟に対処することができた。今後も校外諸施設との協力体制を構築していきたい。

### ⑩ いじめ対応

生活意識調査や面談等により、早期発見が行えるよう努めてきたが今年度は重大ないじめは見られなかった。ただ、これに安心することなく、今後もいじめは存在するという意識のもと、未然防止・早期発見に努めるとともに、組織的な対応が常におこなえるよう備えていきたい。

### ⑪ 業務改善

月45時間以上の時間外勤務を行っている教員の割合は依然として5割を超えており、月45時間、年間360時間以内の時間外労働の上限に納めるために、分掌・業務の見直しやICTを活用した業務改善を今後一層進めていく必要がある。

## 6 次年度への改善策

- ・ 分掌、年次、教科等の連携を充実させて組織力と同僚性を高め、また、地域、家庭との連携を深めて校内外の協力体制を強めることにより、円滑な学校運営・教育活動の実現に取り組む。
- ・ 新学習指導要領実施に備え、「社会に開かれた教育課程」が実践できるようカリキュラム・マネジメントを組織的に進める。また、1人1台タブレットや大型提示装置等のICTの活用を進める。
- ・ SSH第3期の進展に向けて全校一丸となった取組の充実を図るとともに、情報発信についてもこれまで以上に取り組み、成果の普及に繋げていく。
- ・ 生徒の主体的な活動、生活習慣の確立、体力の向上を推進し自主自立の精神を醸成するとともに、望ましい人間関係づくりに向けた取組を継続する。
- ・ さわやかで気持ちの良い挨拶の励行に向けて、教職員から積極的な挨拶や声かけを行い、安全で活気のある明るい学び舎づくりに取り組む。
- ・ 大学入試制度が多様化・複雑化する中、個別の生徒の希望やニーズに対応しながらきめ細かな指導に取り組む。
- ・ きめ細かな面談や定期的な生活実態調査を行うことで、いじめ防止、早期発見に努め、生徒支援にあたっては組織的な取組となるように校内体制を充実させる。
- ・ ホームページや緊急メールを利用して、自然災害等発生時の学校対応連絡を迅速に行うとともに、日々の教育活動の定期的な発信を行う。
- ・ 図書視聴覚課の廃止に伴い情報企画課・総務課に移管される業務が円滑に進むよう適正な業務分担に取り組む。